

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 21 年度 第 3 号 2010 年 1 月 28 日

北海道立栽培水産試験場 調査研究部 TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ資源調査（計量魚探調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：平成 22 年 1 月 16 日～20 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 50～500mの海域（図 1：図中の赤で囲んだ調査線については図 3 に魚探画像を載せています）

なお、スケトウダラニュースは PDF ファイルとして栽培水産試験場ホームページからもご覧になれます。ご利用ください（ホームページには 1 月下旬に掲載する予定です）。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/saibai/suketoudara.htm>

- ・ 魚群は胆振・日高海域の沿岸域を中心に分布
- ・ 魚群反応量は前年同時期よりも多い
- ・ 魚群の分布の中心は水深 100m前後
- ・ 魚体は前回調査同様、小型個体が多い（とくに沿岸域）

1. スケトウダラとみられる魚群は、主に胆振から日高海域に沿岸域に広く分布していました。とくに魚探反応の強い海区は、170、176、179、182 海区でした。なお、渡島側には前回調査（11 月下旬～12 月上旬）の様な強い反応は観測されませんでした（図 2）。
2. 魚群は調査を行った水深 60～500mまで広く分布していましたが、とくに水深 100m前後に濃密な魚群反応がみられました（図 3，4）。なお、この水深 100m 前後の魚群反応は、胆振海域では海底に接していましたが（図 3 の G・H 線）、日高海域（苫小牧沖より東）では海底からやや浮いていました（図 3 の J・L・N 線）。
3. 登別沖でトロールによる漁獲調査を 2 回行いました（I 線と J 線の間、水深 85m と 215m）。その結果、水深 85m 地点で実施した調査では体長（尾叉長）36～47cm 台、水深 215m 地点では同 34～64cm 台のスケトウダラが漁獲されました。2 回の調査ともに 40cm 前後の小型個体が主体となっていましたが、水深 215m では大型個体（尾叉長 45cm 以上）もかなり漁獲されました（図 5 右図）。なお、水深 85m 地点の漁獲物はほとんどが雄で産卵後（放精後）でしたが、水深 215m 地点の漁獲物は雌が主体で、小型～中型個体（尾叉長 45cm 未満）では産卵後の個体が多かったものの、大型個体はこれから産卵する個体もかなりみられました。
4. 今年度のスケトウダラニュースは本号で終了です。今年度は渡島、胆振地区のスケトウダラ刺し網漁業の漁期終了後の発行になってしまいましたが、ご了承ください。

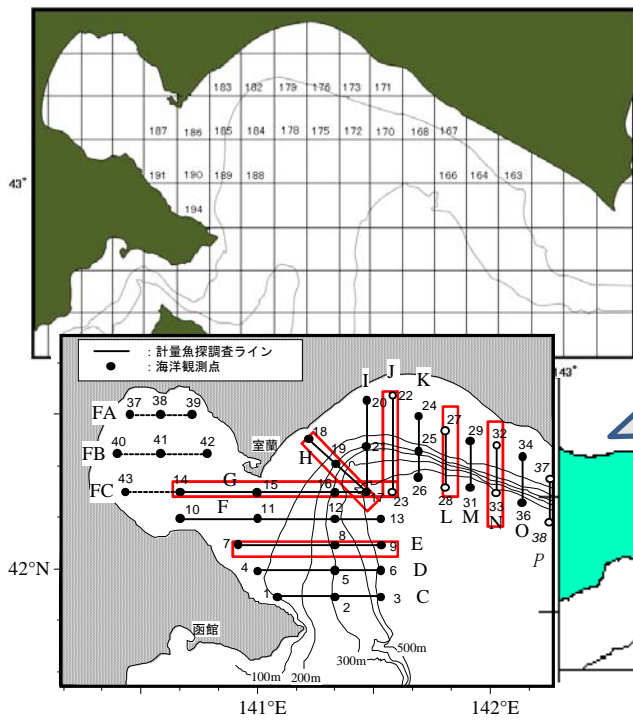


図1 調査海域図(上:沖底海区番号)

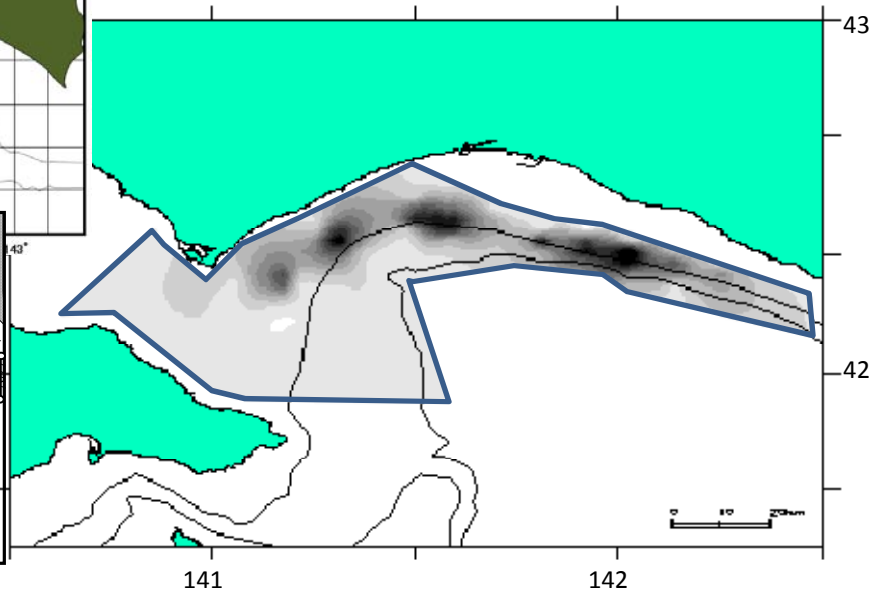


図2 調査海域における魚群の分布

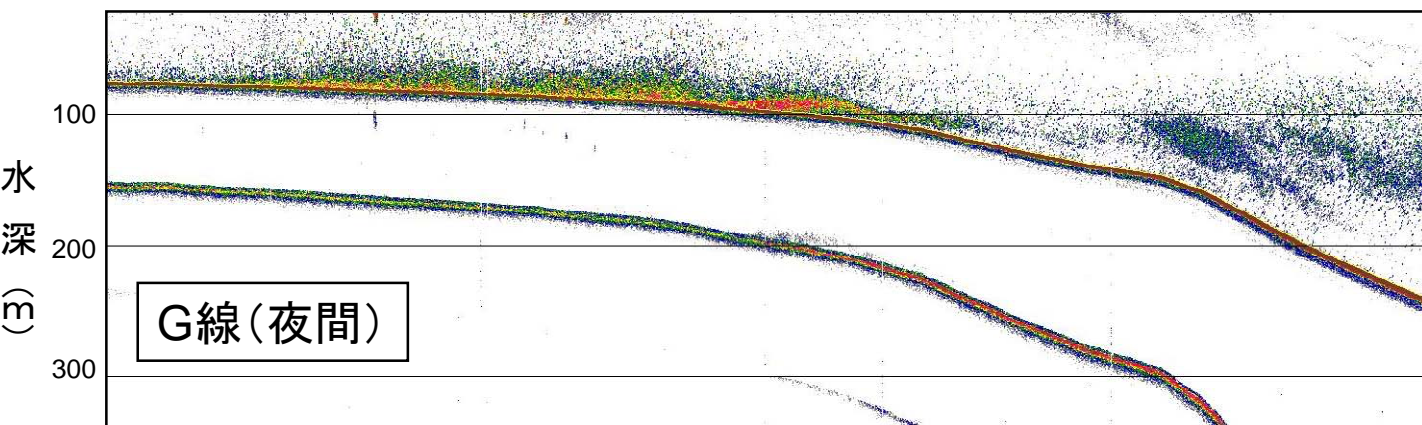
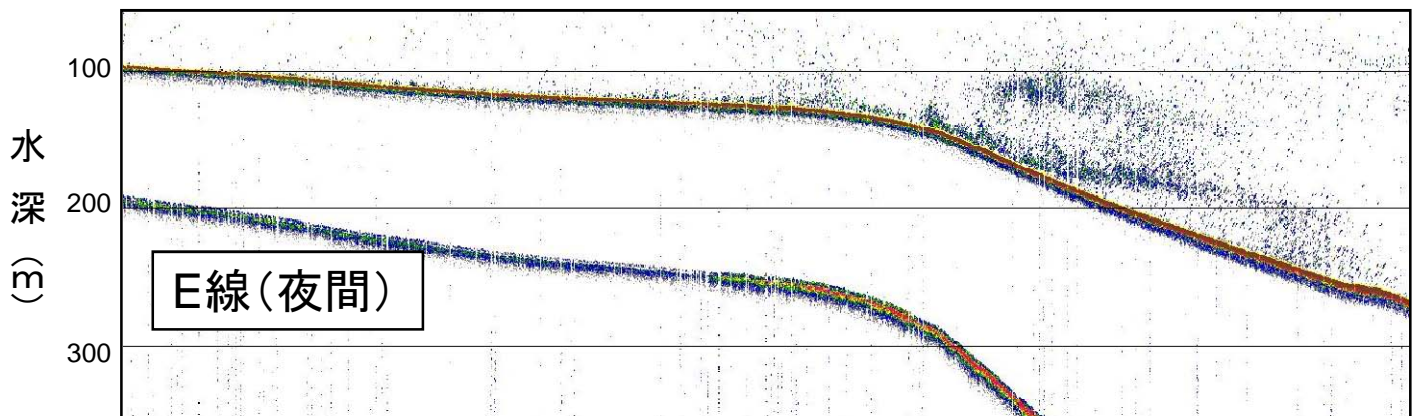


図3 魚群の分布(計量魚探画像)

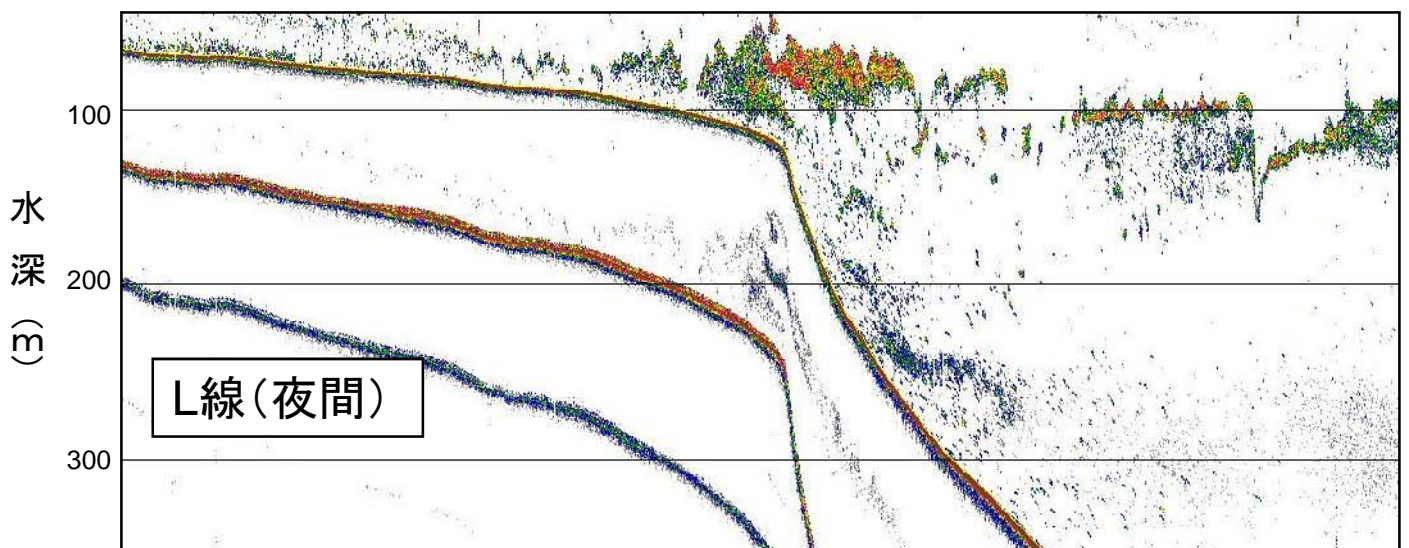
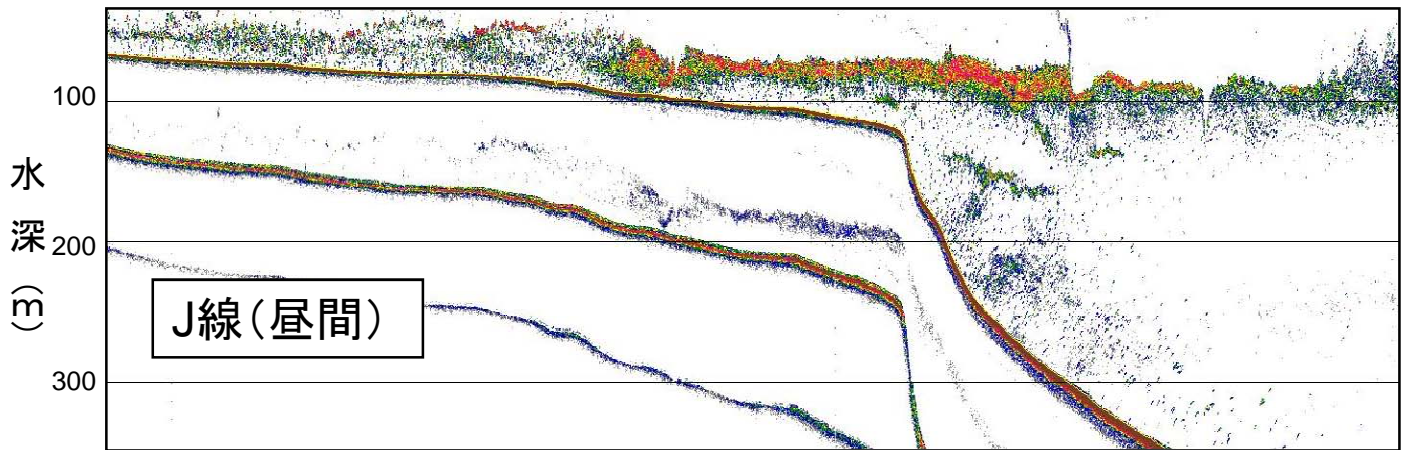
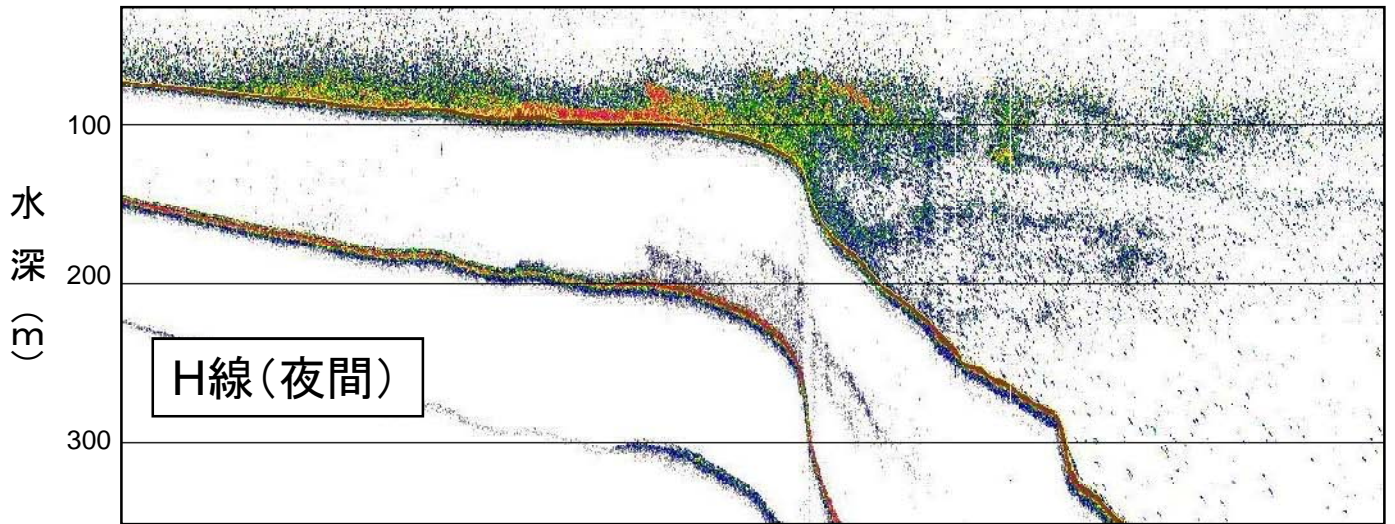


図3 魚群の分布(計量魚探画像)つづき

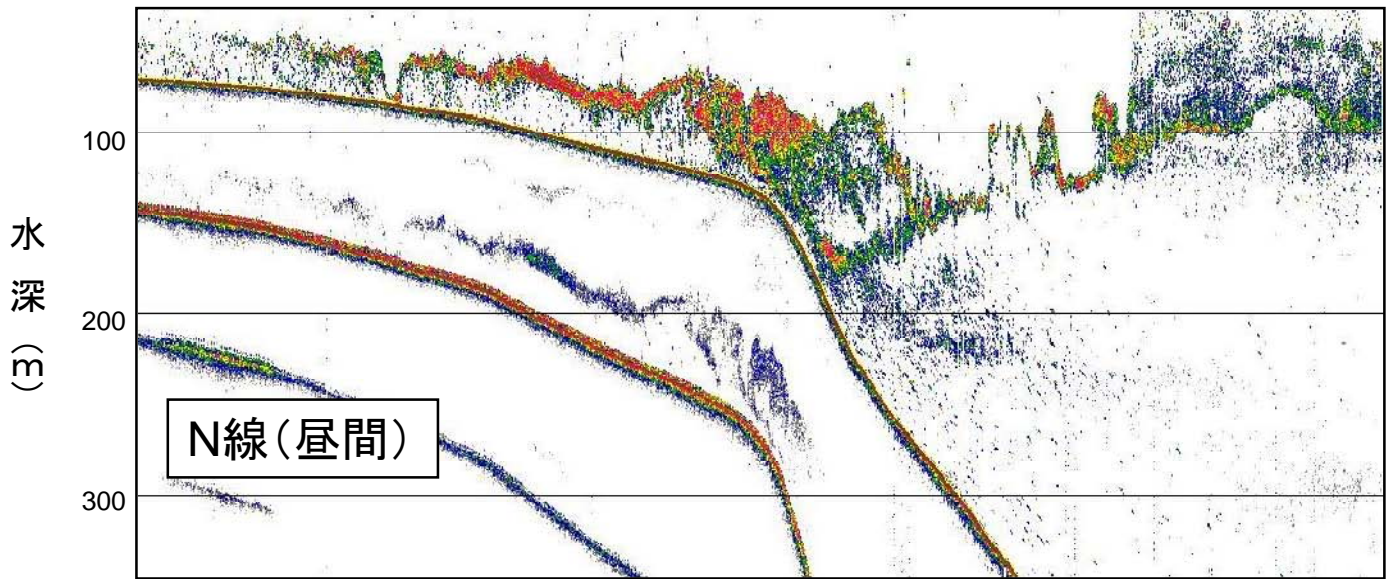


図3 魚群の分布(計量魚探画像)つづき

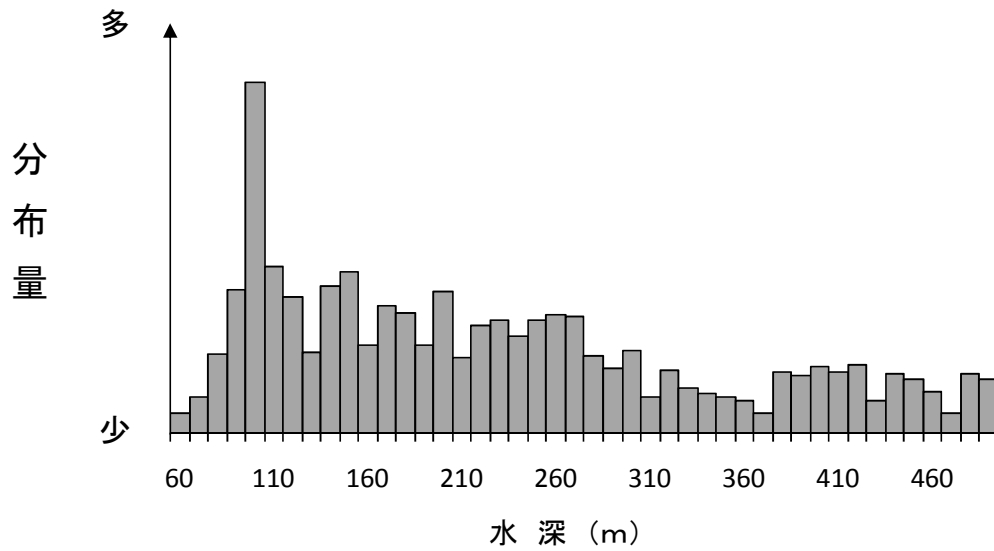


図4 水深別(10m間隔)のスケトウダラ分布量

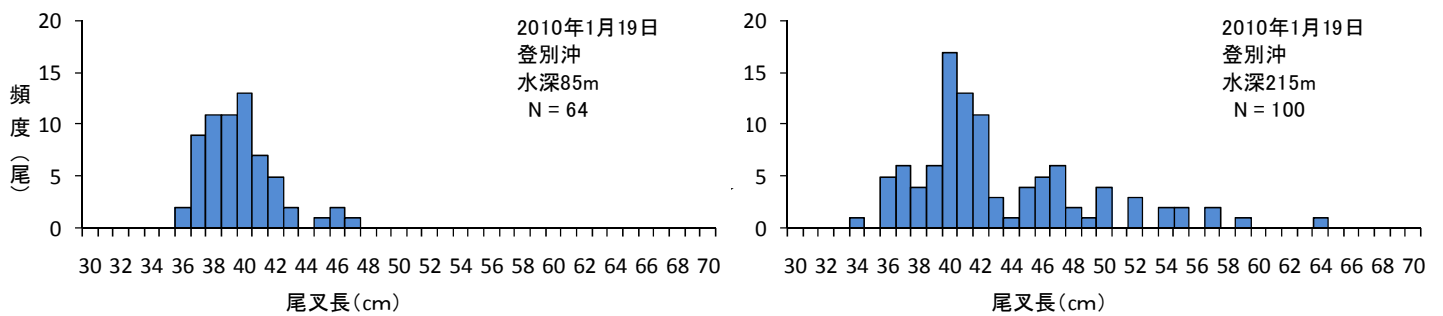


図5 トロール調査により漁獲されたスケトウダラの体長組成